

2017

Vol.29

2月10日

花木水

ハナミズキ

Kawaguchi Municipal
Medical Center

特集

流行性感染症の拡大の防止

p ② ~ p ③

目次

p ④ 病院の取り組み：DMATの訓練

p ⑤ 病院の取り組み：災害時に備えて

p ⑥ KMMC Report：熊本地震に災害支援ナースとして
参加して

p ⑦ 部署紹介：臨床工学科

p ⑦ 医師の交代のおしらせ

p ⑧ 四季の移ろい：冬の季語

p ⑧ ミニギャラリー 2 ヶ月

基本理念

川口市立医療センター
イメージキャラクター
「みみたース」



市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します

流行性感染症の拡大の防止

感染管理認定看護師 佐藤 千晶

流行性感染症の集団発生状況

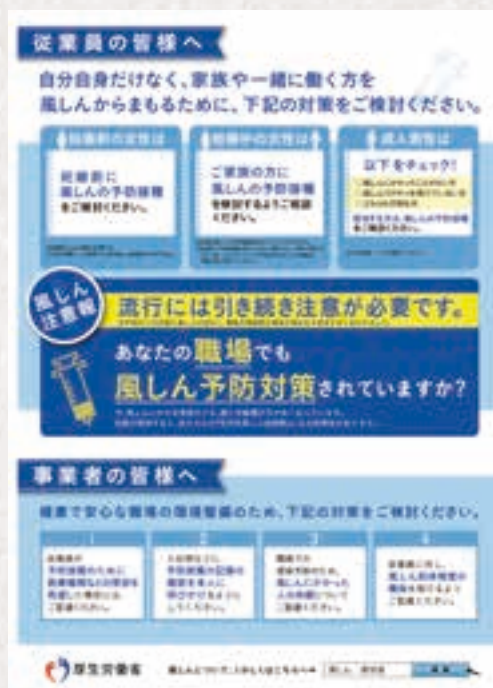
近年、さまざまな流行性感染症が集団発生しています。多くは地域、学校などの集団といったところでの発生です。しかしグローバル化社会である現代、海外との距離が近くなり、海外から持ち込まれる感染症も多くなっています。そこで、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘のように、以前は小児期に罹患することが多かった疾患に関し、近年の特徴や予防についてご紹介します。

これらの疾患はいずれも、小児の疾患という認識が強く成人で発症するという危機感が薄いように思われます。しかし成人でも免疫がなければ感染後に発症し、重症化することが多くあります。

予防接種

平成19年から平成20年に10代から20代の若者を中心に全国的に麻疹が流行しました。その後、平成24年から平成25年には成人男性を中心に風疹が流行し、さらには妊婦が感染して先天性風疹症候群児の出生が増加しました。最近では、平成28年8月に関西空港を起点として、海外から持ち込まれたことが要因と考えられる麻疹の流行が拡大し、昨年度を上回る感染者が発生しました。今後もこのような流行が発生することは十分に予測できます。

それではどのように予防していくべきでしょうか。日本においては、予防接種法で決められたワクチンの定期接種と任意接種があります。麻疹と風疹は2回の予防接種が小児の定期接種スケジュールに導入されているため、小児の患者数は激減し、成人の方が多く発生しています。一方、水痘、流行性耳下腺炎については、平成26年1月の時点では小児の定期接種に導入されておらず、小児を中心に毎年10万～100万人規模の患者が発生していました。そこで、水痘は平成26年10月から小児の定期接種に導入されました。ワクチン接種により自分自身が抗体を持つことが、自分や周りの人々守ることにつながります。自分自身の抗体価を知っておくことは大変重要です。しかし麻疹風疹の流行を受けて、平成20年から平



引用) 厚生労働省ホームページ
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/keihatsu_tool/index.html

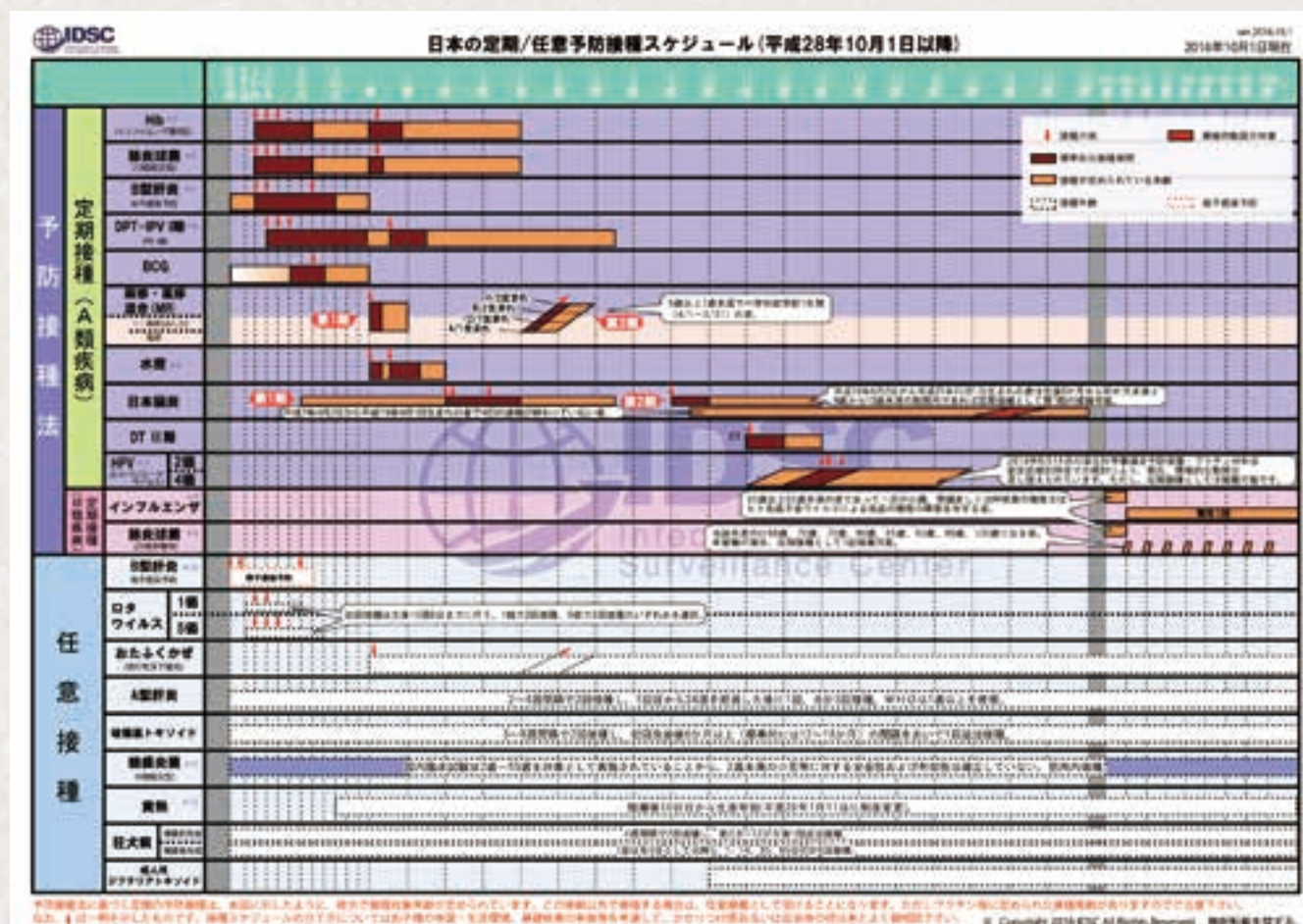
成24年までの時限措置として中学1年生・高校3年生に相当する年齢を対象に実施された麻疹風疹ワクチン（MRワクチン）の追加接種の接種率は、流行予防の目標とされる95%には届かない85%程度（平成20年度第3期定期接種）にとどまりました。

予防にはマスクの装着・手洗い・うがいを

ワクチン接種以外にもやるべきことはあります。それは健康管理上、人込みではマスクを装着する、帰宅時には手洗いやうがいを行う等の対策です。平時からの衛生行動を継続する事と、流行性感染症に対抗できるようワクチン接種等の対策を講じること、この二つを意識して守っておくことが重要なのです。

なお過去に患った感染症やワクチン接種歴の情報は、母子手帳に記載する項目があり重要な情報源になることを知っておいてください。

最後に流行性感染症の拡大を防止する事を目的として、厚生労働省のホームページにも複数の情報が掲載されています。皆さんも、一度確認してみてください。



引用) 国立感染症研究所ホームページ
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/

DMAT の訓練

川口市立医療センターDMAT 業務調整員 横田 隆行

当センターでは、災害派遣医療チームDMAT (Disaster Medical Assistance Team) を組織しております。

DMATとは医師、看護師、業務調整員(医師、看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、災害発生時の急性期に活動できる機動性を持ち、専門的な訓練を受けた医療チームです。

DMATは様々な役割があるため、多種多様な訓練で構成され、有事に備えています。ここで一部の訓練内容を紹介します。



参集訓練

その他にも、DMATの業務では傷病者の対応だけではなく、DMAT間の活動調整を行うこともあります。そのため、訓練も「本部活動訓練」、「情報訓練」等を実施しております。

被災地では様々な情報が飛び交い、情報の優先度・信憑性を精査、確認しながら、適切な場所に適切な医療支援を行えるよう災害情報の調整および統制を図ることが重要です。そこで、WEBサイトの広域災害救急医療情報システムEMIS (Emergency Medical Information System) や衛星通信、衛星携帯電話、無線機等を利用した情報マネジメント訓練を行っています。

このように、川口市立医療センター DMATでは、様々な訓練を実施し、災害時に最大限の医療支援活動を行えるように備えております。



トリアージ訓練

【トリアージ訓練】

災害により発生した多数の傷病者を短時間で重症度、緊急度を判断し、適切な医療提供をする訓練

【広域搬送訓練】

被災地で十分な医療対応をすることが困難な傷病者を近隣の都道府県に搬送する訓練

【航空搬送訓練】

広域搬送の際にドクターヘリや防災ヘリ及び自衛隊航空機を活用し、傷病者を搬送する訓練

【参集訓練】

被災地の適切な場所、適切な方法かつ経路で迅速に駆けつける訓練

【全病院避難訓練】

ライフラインの途絶や施設の損壊した被災病院から入院患者等を別の病院・施設へ避難させる訓練



EMIS 入力訓練

災害時に備えて

診療局長 坂田 一美

「DMAT」訓練と相前後して、災害時の事業（医療）継続の観点から、東京湾北部地震発災を想定した2つの演習、「暫定災害対策本部机上演習」「災害時薬剤業務実動演習」を実施しました。それぞれについて概要をご紹介します。

<暫定災害対策本部演習>

冬の夜間20時に発災したという想定で、当直医長と当直師長の2名が暫定本部員として適確な判断・指示を出すことができるかを確認する演習です。演習に参加したのは医師と看護師長のペアで5グループ合計10人です。

実際の演習としては、各ペアあてに順次集約された情報が与えられます。情報の内容は「震源地と被害状況」「病院建物被害」「電気・水道・下水・ガス・酸素などライフラインの状況」「川口地域の被害状況」「職員参集状況」「搬入傷病者状況」等で、これらを暫定本部として総合的に判断して対応を指示します。その指示（選択肢）の根拠となった情報と、それをどう解釈したかを記載していきます。情報は①発災時～1時間以内、②4時間後（0時）、③18時間後（14時）の3回与えられました。これらの演習結果は分析され、参加者

の教育ならびに能力評価と共に、暫定災害対策本部運営手順、災害対策本部手順が見直されます。

<災害時薬局業務演習>

発災後停電してエレベータは停止し、薬局業務の機械が使用できないといった状況下での、病棟への薬剤提供、調剤に関する実動演習です。若手ペアで4組、8人が参加しました。順次病棟に行き、ワークシート（看護指示表）から患者2名の処方を出し、それを災害用処方箋に転記し、それをもって調剤室に戻り、手作業で調剤し、薬袋に記載して病棟に届けました。アクション単位ごとの時間測定がなされ、またベテランが監察して問題をチェックしていききました。

結果として最短グループでも43分を要し、経験不足、訓練不足が明らかでした。また、災害時処方箋の形式、手順書書式にも検討課題が出てきました。

このように演習によって挙がってきた課題に対して手当して解決を図り、基準や手順を変更して「災害対応の仕組み」を見直し、たとえ発災しても医療が継続していける体制づくりを目指しています。



本部演習

薬局業務演習



熊本地震に災害支援ナースとして参加して

6階B病棟 佐藤 玲子

このたび4月14日に起きた熊本地震に、災害支援ナースとして参加させていただきました。

「災害支援ナース」とは

看護職能団体の一員として、被災地に派遣される看護職をいいます。被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めるとともに、被災者が健康レベルを維持できるように、被災地で適切な医療・看護を提供する役割を担う看護師のことです。

私は、5月5日～8日の3泊4日で阿蘇地区にある一の宮小学校の体育館に行ってきました。今回の熊本地震では、5月5日、近隣県に加え、関東、近畿地方および山口県の看護協会が3市7町村（熊本市、宇城市、阿蘇市、嘉島町、大津町、甲佐町、御船町、益城町、南阿蘇村、西原村）の避難所に延べ128人（32人×4日間）が派遣されました。

熊本空港の上空近くに差し掛かると、空の上からブルーシートで覆われている住宅が多く見られました。空港の壁は、至る所で亀裂が見られ、市内の道路も場所によってはかなり亀裂や陥没があり、山にも地割れが見られました。ニュースで聞いた、脱線した車両がまだそのまま残った状態など、まだまだ地震の爪痕が残る現実を目のあたりにして、震度7の脅威を感じました。

私達の活動場所は、一の宮小学校の体育館でしたが、校舎も新しく体育館は今年の3月に出来上がったばかりで、4月に入学式を行いその後、地震に見舞われてしまったとのことでした。そんな新しい体育館でも、玄関には亀裂と破損が見られました。避難所には、地震発生後3週間が経過しているにも関わらず、100名前後の被災者が避難していました。

私達の主な活動内容は、被災者の健康と衛生環境を整えることなので、定期的にノロウイルスの蔓延対策、害虫駆除、トイレ清掃、避難所の床掃除等を、阿蘇、宮崎・大分から派遣された市の職員や地元の中学生と一緒にを行いました。

その他、被災者の血圧管理やエコノミークラス症候群の予防及び対策の指導等多岐にわたり活動しました。

派遣された初日の夜には、トイレの浄化槽が満杯になり、急遽簡易トイレを作成しました。外に仮設のトイレが5基設置してありましたが、全部和式で高齢者も多かった避難所では、洋式が重宝されていたため、段ボールとオムツを利用してトイレを作成しました。幸い、業者により、2時間ほどでトイレは使用可能となりました。

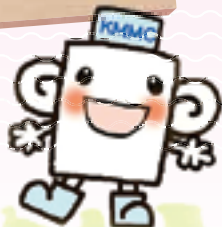
地震発生から20日ほど経過しており、私の活動していた避難所では飲料水となる上水道は、まだ復旧していませんでしたが、下水道・電気・通信は確保されてました。避難者は、大変な思いをしている中でも、周りの人を気遣う姿が印象的でした。今回の派遣活動は、大変貴重な体験でもあり、全てが学びになりました。現場でしか学べない事も多く、本当に充実した活動ができたと思います。

災害時には、支援ナースがいることを頭の片隅にでも覚えておいてください。そして、何かあったら話しかけてください。少しでもお役に立てるように、私達は頑張ります。



臨床工学科

部署紹介



当科は臨床工学技士が勤務する部門で、安全で信頼性のある診療が提供できるように、さまざまな医療機器の管理、使用時の技術補助などを実施しています。これらの業務は医師や看護師と密接な連携を取りながら行っています。主な業務について紹介します。

●血液浄化部門（透析部門）

透析室で使用しているさまざまな機器・器材の準備、透析中の患者状態および機器の状態などを観察し、透析が安全に終了するように管理運用に関わっています。また透析に関連する周辺機器の管理、透析に用いる水に対しての厳密な水質管理なども含め、透析療法に関係するものについて技術提供を行っています。

また特殊なタイプの血液浄化療法（白血球吸着療法、腹水濃縮療法、血漿交換療法、血漿吸着療法、エンドトキシン・薬物吸着療法、持続的血液透析濾過療法等）にもすべて対応できます。

●循環器部門

心臓カテーテル検査、血管内エコー検査などの補助、生命維持に必要な循環補助装置、経皮的人工心肺装置などを使用する際に機械操作補助を行

い、検査・治療が円滑に遂行できるように努めています。

またペースメーカー外来においては、ペースメーカーの管理を介して患者管理も行っています。その他に循環器治療や検査に必要なさまざまな機器の管理や操作補助を行っています。

●手術室部門

麻酔器の使用前点検や、その他の医療機器のトラブル対応を主としています。また多量の出血が予想される手術では依頼により自己血回収装置（セルセーバ）の操作も行っています。

また来年度の心臓外科開設に伴い、開心術における人工心肺装置の操作のためスタッフを増員して対応し、手術室での業務を拡大していく予定です。

●医療機器部門

院内全体で使用している人工呼吸器、輸液・点滴や注射に使用するポンプ、心電図や血圧などを継続的に測る生体情報モニタ、AED等の機器の購入から保守点検・故障修理・廃棄に至るまでの一元管理を行っています。

医師の交代のお知らせ

新 任



トモリ ケンタ
友利 賢太
1月1日付
消化器外科 医長

地域のために頑張りますので宜しくお願いします。



ダイラク カツシ
大楽 勝司
1月1日付
消化器外科

1月から来ました外科の大楽です。よろしくお願いします。

退 任

小山 能徹
12月31日付
消化器外科

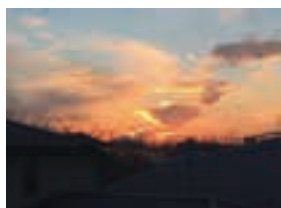
四季の移ろい

冬の季語

俳句では季語が必要と言われています。季語は時候や天文、地理、行事、植物などさまざまな分野で決められています。その中で、晩冬（小寒から立春の前日まで）を指す季語を幾つかみてみませんか。

冬茜

冬茜とは「冬夕焼け」という冬の季語の傍題（季語の類義語で、季語として扱うことができる言葉）の一つです。「冬夕焼け」というより「冬茜」といったほうが叙情がある気がします、西の空がオレンジがかった朱に染まり、葉っぱを落とした木々の枝が影として



富士と冬茜

写り込んできます。空に浮かぶ雲が一緒にあると、雲の厚さによって、朱の色の雰囲気が変わります。なんとも綺麗なグラデーションを見ることができます。

節分

節分は季節を分けるという意味もあり、立春の前日を指すことが多いと言われています。すなわち冬から春に変わる時期を1年の境とし、今という大晦日とおなじように考えられていたためです。この時期の季語としては、ほかに、「春近し」「冬尽く」といった、冬が終わり、春がすぐそばにきているという、明るさを待つ言葉があります。一方で「厳寒」「冬深し」といった、非常に寒い時期であるという冬の厳しさを示す言葉もあります。本当に2月を表している言葉だと思いませんか。

王子の狐火

これは晩冬の行事の一つを示す言葉です。なんだかわかりますか。大晦日に全国から集まった狐が装束を整えて王子稲荷神社に詣でたという伝承から来ています。歌川広重の浮世絵にも描かれ、平成5年から王子の街では「狐の行列」を始めたそうです。

こんなさまざまな表現を覚えていくと、四季を非常に多くの言葉で表す日本語って非常に趣があると改めて思いますね。（さ）

ミニギャラリー2ヵ月

「宮川文子押花展」では、ご自宅で丹精こめて育てられた花々や旅先や散歩途中で見つけた花や葉を10年程前から押し花にした作品です。変色の原因となる水分、酸素、紫外線を取り除き、色褪せせずに自然の色が残っており、優しい色合いと風景やリースなどに形作られた花々が雰囲気をもたらし、癒しを与えてくれました。

「たったひとつの花（タチアキヒロ展）」では、繊細で優しい表現と鮮やかな色合いの作品たちが物語を紡ぎ、作品の持つ世界観が見ている人たちの心を豊かにしてくれました。

「どの作品も温かみのある作品で、心が癒されました」という感想が寄せられています。

なお、ミニギャラリーの展示内容は医療センターHPでもご覧いただけます。

◆宮川文子押花展（11月）◆



◆たったひとつの花（タチアキヒロ展）（12月）◆



編集後記

年が明けてから一段と寒さが増していますが、体調いかがでしょうか。今年もインフルエンザが流行しているようです。手洗い・うがいを心掛けましょう。

冬の澄み切った青空、夕焼けの美しさは、四季の中でも特にそう思います。そんな風景を見ながら散歩・ウォーキングで身体を動かすのもいいかもしれませんね。

発行責任者 川口市立医療センター 大塚 正彦

編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180

☎048-287-2525(代表)

HP <http://kawaguchi-mm.org>